

(1)

2012年3月24日

The Kyodan Times

(1933年12月28日 第三種)
郵便物認可 隔週土曜日発行

第4744号

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志
印刷所 株式会社かんし



若者文化の発信地渋谷、今、ここに立つ教会から伝道150年、震災救援のメッセージが発信される

この事実の峻厳に真向かい、己が立ち位置と想像不可能の、かの地の実状との乖離に立ち尽くすだけなのか。何時の時代も牧者は、その境界線上の証しの台に立つべき者。彼は、そのマジナルな(境界線上の)地點にある苦しみのために召されている。「あなたの重荷を主にゆだねよ、主はあなたを支えてくださる。主は従う者を支え」とこしえに動搖しないように計らつてください」

(詩編55・23)

6月、梅雨晴れの澄みきり

（55・23）

「あなたは、あなたの馬に海を大水の逆巻くところを通つて行かせられた。それを聞いて、わたしの内臓は震え、その響きに唇はわらない」

（ハバクク3・15～16）

2011年3月11日は、2日前の9日から主の受難節に入つたばかりの日であった。東京は寒いが陽の光は春めき、木々は水氣を含んだ匂い立っていた。その時、わたしは西早稲田の教団ビル5階東京教区

の教団ビル5階東京教区

事務所でその夕開催する常設委員会を準備していた。地震とは思ったが、それは意外に長引き、階下から轟音すら突き上げた。棚上の荷物は落ち、目前の奶茶がこぼれた時、初めて机の下へ潜れと叫びながら自分もそうした。

最早エレベーターは動かず、4階出版局は避難した

事務局には2、3人残つてはいたものの、ミシン軋む

（エゼキエル13・5）

翌日、国内外大半の人々が釘付けされたTVは、覆われていた格納容器爆発を心溶融は進んでいたが、眞実は蓋されていた。

地震と津波との複合事故

に起つた。大津波が、千葉から北の太平洋沿岸至る所の人と生活、農漁商工等産業、医療、介護、教育、福祉、公共等諸機関全体の弱さを露呈した。この弱さは、まさに「あなたは、あなたの馬に海を大水の逆巻くところを通つて行かせられた。それを聞いて、わたしの内臓は震え、その響きに唇はわらない」

（ハバクク3・15～16）

2011年3月11日は、2日前の9日から主の受難節に入つたばかりの日であった。東京は寒いが陽の光は春めき、木々は水氣を含んだ匂い立っていた。その時、わたしは西早稲田の教団ビル5階東京教区

3. 11 メッセージ

ハバクク書3章15～16節

立つている所が揺れ動いた

無念の人々を深く思う



長崎哲夫

た。

現地は更に深刻を究めた。今も35万人離散家族の帰宅と、除染の自処は立てない。

「人の子が現れる日にも、同じことが起る。その日には、屋上にいる者は、家の築こうともしない」

（ルカ17・30～31）

松島から戸戸までのリアス式海岸と山間の町や村をバスで旅したことがある。豊かで美しい海辺に入る

毎、否応なく目にした大き

に降りてはならない

（ルカ17・30～31）

松島から戸戸までのリアス式海岸と山間の町や村をバスで旅したことがある。豊かで美しい海辺に入る

毎、否応なく目にした大き

第4744号	(第三種郵便物認可)
協約委員会が、2月26日（木）14時より、教団小会議室において行われた。	第37総会期、第3回台湾
田中丈宏委員長の開会祈禱の後、今回の主要課題である「台湾基督長老教会と日本基督教団との教会協議会」についての話し合いがなされた。	歩み」とすることが確認された。
最初に、今協議会のテーマを、「震災の痛みの共有	台湾基督長老教会（PCT）も、2009年に起きた大水害（八八水害）において大いなる痛みを負い、そこからの回復期にある。
PCTは最大の支援団体	また教団にとって、台湾はこの度の東日本大震災における最大の支援国であり、

互いの災害の痛みを共有し

第3回台灣協約委員会

水害に
イール
ことし
の教会
いの災
またそ
の取り
会した。
（野田沢報）

その後、「I Love Tai-
wan」公募に関して話し合
われ、前回参加者を立てる
ことができなかつたことを
反省し、広報の充実と參加
費の減免などが決議され
た。

また教団教育委員会主催
「台湾ユースミッション」
に関しては、台灣協約委員
会としても、できる限り協
力することが確認され、李
猛哲委員の祈禱をもつて閉



左から、李猛哲委員、田中文宏委員長、野田書記

派遣式が、秋山徹牧師によつて
る司式、木下宣世界宣教委員會委員長の、マタイ福音書11章25～30節に基づく
説教によって、日本聖書神学校において執り行われた。
斎藤宣教師は、ドイツ、ケルン・ボン日本語キリスト教
ト教会に、林原泰樹宣教師の後任として、4月より赴任する。
同教会の前身は、1977年
に歩み出した、ボン大
学神学部の「ボン聖書集会」
であり、後に礼拝場所をチ
ルンに移し、「ケルン・ボン

これまで、日本基督教団とフライングント州教会が、同教会の財政を支援してきたが、昨今のドイツ教会に共通する財政逼迫により、宣教協力関係は保ちながらも、まさに、齋藤宣教師赴任直前の3月に、ドイツ側の支援終了が決定している。これまで以上の厳しい経済状況での働きとなる。

また、説教の中でも語られたが、前任者となる林原宣教師の二女玲羅さんの病気による死去と、前任者の宣教師夫妻の病気療養のための中途帰国という、大

齋藤宣教師は、派遣式当日に配布された『ごあいさつ』の文中で「与えられた課題に対し、遣わされる教会の皆様と共に、神の力によって大胆に挑戦し、神への信仰にしつかりと立つ教会の宣教の業に全力を持つ働きたい」と力強く語っている。

(なお、夫人の齋藤朗子さんは、今春、日本聖書神学校を卒業し、試験、諸準備を終えた後、追ってドイツに渡り、共に宣教の業を担う予定である)。

第127回 神奈川教区総会

第127回神奈川教区総会が、2月25日（土）、清水ヶ丘教会を会場に、議員登録数2337名中、開会時の登録数173名をもつて開催された。

議員点呼、開会宣言の前に、常置委員会推薦の北村慈郎議員の議席を巡って、異論があった。信徒議員扱いになつてゐるが、正教師、正議員として認め、按手礼にも加わることが出来るようすべく、教団による免職は誤りだとの意見が述べられた。これに対して岩崎隆議長は、残念だがと前置きし、教団の手続きの現状について説明し、推薦議員としたのは教区としての配慮であると述べ、議員点呼と開会宣言を行つた。

議案第1号の按手礼問題に関する件では、志願者全員によつて所信表明なされた。内5名が、明確に教憲・教規を遵守する旨を述べ、他の個人的には宗教改宗の事実を明言した一方で、教団の万人祭司の考え方方に立つた。

明確な意見を6名の者を得た。議案第2号の教区本方策案については、が、特に東日本大震災に関する2項目を、例に新しい事柄として明した。質疑の中でも17の基地問題を取り項目について、「さら隊の海外派兵に今後する」という文言をの決議に基づく平和的目的とした派遣にもるのか、削除すべき正動議が出されたが4中44票の少数賛成り否決され、原案がまた一体に社会問

題に傾	可決さ	に留ま	、15	の修	反対す	維持を	の意旨	主文の	方向で	た。大	議案返	予算案も	述べな	い数は	礼拵と	き云道との	あると
1 3 5	う意	常置委	言詳細	が、こ	し、何	が、こ	の意旨	主文の	た。	た。大	議案返	予算案も	述べな	い数は	礼拵と	き云道との	あると

争を守っていない教会へ、従つて伝道していくが、それはないという反論が、された。この議論は、原発審議を巡つても繰り返された。



6名の按手礼が執行された

齊藤篤宣教師派遣式 ケルン・ボン日本語キリスト教会へ

教会 2007年には創立30周年を迎えました。この深い傷を負った教会への齋藤宣教師の赴任は、だからこそ、大変に期待を持

木



木下委員長から派遣準備金が贈られる

(3) 2012年3月24日

教 团 新 報

(第三種郵便物認可)

第4744号

部落解放の取り組みが、 さらに支えられることを願いつつ開催

第5回部落解放センター運営委員会



「運営委員の役割」を朗読、共有。
課題、悩みを語り合った。



地方教区の負担を軽減する方式を模索するも

2月2日(木)～3日(金)、教団会議室において第5回部落解放センター運営委員会が開催された。出席者は開会式後、各教区の取り組みについて報告を受けた。

次に、予算決算委員会関係の議事録の確認が書記の交代などのため、遅れていたので、あらためて書記が読みあげ、議事録を確認し、報告を受けた。

次に、予算決算委員会における審議や報告が行われたが、特に各教区の取り組み報告時に、それぞれの教区委員会報告の資料に基づく「運営委員の役割」を朗読して共有し、思いや抱えていた問題、悩みを語り合つた。運営委員会を通して各教区での取り組みが支えられることを願つてやまない。また、前回委員会に統一して東京電力・福島第一原発事故による放射能差別についての報告がなされた。活動献金の目標額は昨年も昨年と同額とすることが承認され、2012年度の予算が承認された。中間決算報告が行われたが、厳しい財政状況が続いている。活動献金の目標達成に向けて呼びかけていく。

2月2日(木)～3日(金)、教団会議室において第5回部落解放センター運営委員会が開催された。出席者は開会式後、各教区の取り組みについて報告を受けた。

次に、予算決算委員会における審議や報告が行われたが、特に各教区の取り組み報告時に、それぞれの教区委員会報告の資料に基づく「運営委員の役割」を朗読して共有し、思いや抱えていた問題、悩みを語り合つた。運営委員会を通して各教区での取り組みが支えられることを願つてやまない。また、前回委員会に統一して東京電力・福島第一原発事故による放射能差別についての報告がなされた。活動献金の目標額は昨年も昨年と同額とすることが承認され、2012年度の予算が承認された。中間決算報告が行われたが、厳しい財政状況が続いている。活動献金の目標達成に向けて呼びかけていく。

次回委員会は全国会議後

の6月13日(水)～14日(木)に開催の予定。

(多田玲一報)

（多田玲一報）

